

白ネギ防除体系の見直しによる収量向上

対象者 忍葱生産者

【普及活動のねらい】

白ネギは高収益作物として管内で推進している作物であり、キャベツ、タマネギに次ぐ栽培規模となっています。令和5年には32戸、5.1haで栽培され、特定の規格を満たしたネギは「忍葱」のブランド名で販売されています。

白ネギは栽培期間が長く、生産者の管理技術の差が出やすい品目であり、10aあたり2,000kgを超える生産者がいる一方で、10aあたり1,000kgを下回る生産者や出荷に至らない生産者もいます。単収低下の主な原因は、白絹病等の病害虫被害と、適期に除草対策が実施できていないことでした。そこで、防除体系の見直しによる収量・品質の高位平準化を目指して支援を行いました。

【普及活動の内容】

JAと連携して5回の研修会を実施し、適期作業を励行するとともに、新たにSNSグループを立ち上げ15回の早期情報発信を行いました。また、生産者ごとに作業の手の空いている時期を見計らい、個別の生産者の都合（他の作物の繁忙期）を意識しながら、繁忙期に入る直前に次の作業の啓発を行いました。白ネギの生理生態を説明した上で、出荷開始までに白ネギの軟白部長が規格の長さまで生長できるよう逆算し管理作業の指導・啓発を行いました。

さらに、次年度、水稲跡ほ場で白ネギを栽培する意向のある生産者には、土づくりと雑草対策を兼ねて緑肥作物の活用を提案しました。

【普及活動の成果】

今年度は、早期梅雨入り、干ばつ、酷暑と白ネギ栽培にとって栽培が非常に難しい気象条件でしたが、啓発に従って防除の改善に取り組んだ生産者では、白絹病等による被害株率を低く抑えることができました。また、雑草対策も意識的に取り組まれた生産者も多く、年内に出荷規格となる25cm以上の軟白部長を実現した生産者が令和4年比で30%増加しました。更に、令和6年産の白ネギ栽培に向け、11戸が緑肥作物を活用した土づくりに取り組まれました。白ネギ栽培の生産振興により土地利用型経営体の収益性改善につなげられるよう、今後も支援を継続していきます。



忍葱栽培研修会の様子



研修会と併せてPR写真を撮影

◎対象者の意見

SNSによる情報発信など今までにない取り組みをしていただきありがたい。今後も指導をお願いします。（生産者 H.T氏）